

キャリアビジョンは固定のものではない 2011年度就職企画室長から

システム情報科学専攻 金子 俊一 教授

就職企画室の狙いは、一も二もなく学生支援です。具体的に言えば、主に学校推薦を希望する学生をどう支援するかということです。求人のある企業は、社会全体が不景気・就職難と言われておりますが、今年度卒業・修了予定者に対して397社でした。就職企画室が計算している業種の割合は求人者の割合ではなく、内定先の割合になりますが、大勢は変化なく情報や電気といったところを中心に求人が来ています。でも求人はそこだけに限らず、情報のスキルを持った人がほしいということで、いろいろなところから来ています。

就職企画室は学生向けにガイダンスを行っています。この目的は、就職に限ったものではなく、大学院進学も含めた全体について、進路の情報を伝えることと、進路についての意欲を高めてもらうことです。求人数とか業種といった就職の詳しいデータは就職企画室のホームページ、キャリアセンターのホームページをはじめとしていろいろなところに載っていますから、ガイダンスで学生に説明する内容で、特に大事にしたことは「気持ち」とか「考え方」ですね。僕らは就職の難しいことも学生に伝えないといけないので、進路ガイダンスではそういうことも話しました。

キャリアビジョンを持ちなさい、とはよく言われていることですが、個人的には容易なことではないと思います。本当のことをいうと、我々すらも持っていない場合が多い。十年後、二十年後の自分のビジョンを持つとするのは難しいですよ。もうお亡くなりになりましたが筑紫哲也さんが好きで、若い人たちがキャリアビジョンを決めるように言われていることについて、彼は「自分のキャリアビジョンなんて簡単に言えません、キャリアビジョンは死ぬまで決まらないのだから」と言っていました。



2011年度就職企画室長 金子 俊一教授

た。我々は若い人たちに、「自分の人生のキャリアビジョンっていうのをちゃんと決めなさいよ」としたり顔で言ったりするけれども、筑紫さんも「私だって自分のキャリアビジョンなんて言えませんよ」と言っている。だから学生に言ってあげたいのは、「キャリアビジョンを今すぐに固定しなくてもいい、今決めなければならないことはあるけど、それは変わったって良いんだよ」ということです。

今ここで決めたことを二十年間変えてはいけなく、なんて言われたら学生は大変ですね。学生にそんな大きなことは要求できないし、そんなことができる人間はなかなかいないと思いますよ。でもだからといって、決まっていなくてもいいという意識は良くない。進路ガイダンスの後に、アンケートで進路の第一希望、第二希望を書かなければいけないので、決めようとする努力は必要ですね。就職の場合には、たとえば学校推薦の関係もありますから、そのとき決めてアンケートに書いて提出した希望によっていろいろなことが動いていくわけです。一週間後に「やっぱりやめた」となるような決め方は良くない。自分とよく相談して気持ちを広く持って将来を考えることが大切、と学生に言ってあげれば良い。そういうことも進路ガイダンスでは話しました。

全文は下記URLに連載として掲載されます。
<http://www.ist.hokudai.ac.jp/voice/>

若手研究者支援のための産学協同GCOE 国内シンポジウムを開催しました

平成23年10月5日（水）、6日（木）の二日間の日程で、標記シンポジウムが情報科学研究科にて開催されました。本シンポジウムは、情報科学研究科グローバルCOE（GCOE）プログラムに参加する若手研究者の支援を目的として企画されたものです。学生・PDによるポスターセッションでは、昨年度に引き続き、各自の研究がどのように社会に貢献するのかをアピールする発表を行い、そのプレゼンテーションについて大学外部からの参加者による講評を行いました。また、国内企業で活躍する本研究科OBの方や現役大学院生をパネリストとしたパネル討論が行われ、博士後期課程学生のキャリア形成についての活発な議論がなされました。

さらに、国内の企業および関連大学から研究者を招き、若手人材育成と最先端研究に関わる招待講演と特別講演、オーガナイズドセッションが行われました。

本シンポジウムは企業など外部の方や修士課程の学生を含めて、初日・二日目ともに過去のGCOE国内シンポジウムを上回る170名以上の皆様に参加いただき、活気あふれるシンポジウムとなりました。

（情報科学研究科GCOE特任助教 伊藤 真純）

平成23年度 第一回研究科FD研修会を開催しました

平成23年10月26日（水）16時30分から情報科学研究科で開催されたFD研修会では、北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部高等教育開発研究部門の部門長である細川 敏幸教授を講師としてお迎えし、「世界のFDの現状と次世代FDのねらい」と題して約一時間の講演および質疑応答をしていただきました。

細川教授は、本学で進めている次世代FD研究会の座長を務められ、先日は昨年までの成果をまとめた報告書「次世代FDの研究」を編纂し、学内外に公表しています。

本研修会では、これまでの教育改革の系譜、現在の国外、国内、学内におけるFDの概要・状況、次世代FDが必要な理由とその概要、次世代FD研究会での新たな試みなどが紹介され、本研究科における教育および研究指導のさらなる改善を目指す上で、多くの知見を得る貴重な機会になったものと思います。なお、研修会の内容はビデオ撮りされ、eラーニングFD教材として教職員に公開されます。

サステナビリティ・ウィーク2011「グリーン回路とシステムに関する国際ワークショップ」を開催しました

情報科学研究科グローバルCOE（GCOE）プログラムの主催で、平成23年11月4日（金）に“International Workshop on Green Circuits and Systems（グリーン回路とシステムに関する国際ワークショップ）”が開催されました。本ワークショップは、北海道大学が例年開催するサステナビリティ・ウィークの企画の一つとして、次世代の信号処理を主題にグリーンシステムに関する基調講演と技術セッションを実施しました。

基調講演では、タイ王国から招聘したKing Mongkut's University of Technology Thonburi教授Kosin Chamnongthai博士に“Moving Object Tracking”に関して、移動体に対するローコストな信号処理システムの講演をしていただきました。これからの情報科学技術を利用した持続可能な新しい社会の実現に関する内容が含まれており、サステナビリティ・ウィークの企画として大変有益な内容でした。

基調講演の後、GCOEのリサーチアシスタントとして研究を進めている本研究科の博士後期課程学生より一般講演があり、低消費電力を指向した次世代情報通信システムや音声認識システムの最新技術に関しての研究発表があり、活発な意見交換が行われ、活気あふれるワークショップとなりました。

（メディアネットワーク専攻 教授 宮永 喜一）

平成24年新年会研究科長挨拶

情報科学研究科新年会が平成24年1月5日（木）にファカルティハウス・エンレイソウで開催されました。冒頭、栗原 正仁情報科学研究科長より年頭にあっての挨拶がありました。

まず本年3月で5年間のプログラムを終了するグローバルCOEのリーダー有村 博紀教授ら関係者一同への謝意が述べられ、つぎにリーディング大学院構想をはじめとする今後の研究科運営の計画が説明されました。最後に平成24年度末に行われる第二期中期計画期間の中間評価に向けた自己評価やデータ収集・分析作業への研究科教職員の協力が依頼されました。

研究科長挨拶「年頭にあって」の全文は下記URLに掲載されています。

<http://www.ist.hokudai.ac.jp/news/n1201.html>

博士学位論文提出者数

博士学位論文提出者29名による公開論文説明会が1月26日（木）から2月1日（水）の期間、情報科学研究科11階会議室で開催され、同所で行われる学位授与審議委員会で審議されます。

専攻別の博士学位論文提出者数は次のとおりです。

博士学位論文提出者数

専攻	人数
複合情報学	6
コンピュータサイエンス	4
情報エレクトロニクス	5
生命人間情報科学	1
メディアネットワーク	6
システム情報科学	7
計	29

平成24年度大学院入学試験（第2次）

平成24年度北海道大学大学院情報科学研究科博士後期課程ならびに修士課程の入学試験（第2次）が、2月16日（木）、17日（金）の両日実施されます。入試結果は3月15日（木）に発表される予定です。

平成24年度情報科学研究科入学試験募集人員 （平成24年2月実施、平成24年4月入学）

専攻	定員	一次試験合格者数	募集人員
複合情報学	24	29	—
	4	3	若干名
コンピュータサイエンス	24	25	—
	8	5	若干名
情報エレクトロニクス	39	39	若干名
	8	9	若干名
生命人間情報科学	33	24	若干名
	6	4	若干名
メディアネットワーク	30	40	—
	8	7	若干名
システム情報科学	27	35	—
	8	4	若干名
計	177	192	
	42	32	

・各専攻上段：修士課程、下段：博士後期課程

平成23年度北楡会母校交流会開催報告

平成23年10月7日（金）、情報科学研究科と情報

科学研究科に関連する学科の同窓会である北楡会が母校交流会を行いました。

講演会では二つの講演が行われ、始めにコンピュータサイエンス専攻の湊 真一教授から、ERATO湊離散構造処理系プロジェクトの概要と最近の動向についての説明があり、続いて株式会社日立製作所情報・通信システム社伊藤 明男COOから、日立製作所が取り組んでいるスマートシティの概要と現状について紹介がありました。

各研究室によるポスター展示では、発表を担当する学生とOB・OGが熱心に研究内容を議論する姿が見られました。OB・OGによる投票の結果、複合情報学専攻混沌系工学研究室と生命人間情報科学専攻生体計測工学研究室が優秀プレゼンテーションに選ばれ、懇親会の中で表彰されました。

北楡会、および北楡会母校交流会の詳細は、北楡会ホームページをご覧ください。

<http://www.ist.hokudai.ac.jp/hokuyu-kai/>

情報科学研究科長候補者選考

平成24年1月12日（木）開催の情報科学研究科教授会において、研究科長候補者選考に係る日程等が決定されました。

1月19日（木）に候補者の選考日および第1次候補者の推薦期日が公示され、2月1日（水）の公開質疑、2月2日（木）の助教による投票および教授会における選考を経て、同日候補者決定の公示がなされる予定です。

【人事異動】

[教授]

（採用）平成23年12月1日	
舘野 高	生命人間情報科学専攻 生体システム工学講座 （大阪大学大学院生命機能研究科 特任准教授より）

[特任講師]

（採用）平成23年12月1日	
西川 淳	生命人間情報科学専攻 生体システム工学講座 （大阪大学大学院生命機能研究科 特任助教より）

【受賞等】

[教員]

2011年9月14日	佐野 栄一
情報エレクトロニクス専攻 教授	
社団法人 電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティから「超高周波高速半導体集積回路の研究開発における顕著な功績」によりフェロー称号を受称	

2011年9月20日	小笠原 悟司 ¹⁾ 、竹本 真紹 ²⁾ 、 他5名
1) システム情報科学専攻 教授、2) 同専攻 准教授	
2011 IEEE Industry Applications Society, Electric Machines Committee, First Prize Paper Award, "Torque density and efficiency improvements of a Switched Reluctance Motor without rare earth material for hybrid vehicles" in Proceedings of the 2010 IEEE Energy Conversion Congress and Exposition (ECCE 2010), Atlanta, USA, Sept. 2010, pp. 2653-2659.	
2011年11月3日	福井 孝志 ¹⁾ 、本久 順一 ²⁾
1) 情報エレクトロニクス専攻 教授、2) 同専攻 教授	
日本結晶成長学会 第28回日本結晶成長学会論文賞 「選択MOVPEによるGaAsナノワイヤの触媒フリー成長」	
2011年11月18日	齊藤 晋聖
メディアネットワーク専攻 准教授	
東北大学電気通信研究所 第1回 RIEC Award 研究業績名「微細構造光ファイバの高度利用技術の開発に関する研究」	

[学生]

2011年7月21日	ダンコヴ・スヴェトスラヴ ¹⁾ 、 ジェブカ ラファウ ²⁾ 、荒木 健治 ³⁾
1) メディアネットワーク専攻 博士後期課程3年、 2) 同専攻 助教、3) 同専攻 教授	
12th Conference of the Pacific Association for Computational Linguistics, Best Paper Award (Poster Session), "UIAR Common Sense: an augmented reality framework for creating games to collect common sense from users"	
2011年10月1日	(各賞ごとに氏名等を記載)
一般社団法人 情報処理学会 北海道支部 情報処理北海道シンポジウム2011	
研究奨励賞	堀宮 ありさ ¹⁾ 、佐藤 晴彦 ²⁾ 、 小山 聡 ³⁾ 、栗原 正仁 ⁴⁾ 、他1名
	1) 複合情報学専攻 修士課程2年、 2) 同専攻 助教、3) 同専攻 准教授、 4) 同専攻 教授
	twitterにおける発話者へのリプライを用いたユーザ感情推定手法
	岩崎 幸安
	複合情報学専攻 修士課程1年
	物流センターのピッキング作業へのJSPの適用
	小川 純
情報エレクトロニクス学科4年	
仮想水中環境における海藻モデルの絡み現象の開発	

学術研究賞	小林 佑輔
	複合情報学専攻 修士課程1年 ロボカップシミュレーションにおける異方性評価指標を用いた支配タイプの検出
技術研究賞	巻口 誉宗 ¹⁾ 、吉川 浩 ²⁾ 、棟方 浩 ³⁾ 、 小野 哲雄 ⁴⁾ 、他2名
	1) 複合情報学専攻 修士課程2年、 2) 同専攻 学術研究員、 3) 同専攻 特任助教、4) 同専攻 教授
	スマートフォンで利用可能な脈波信号測定装置 一音声入出力インターフェースを用いた信号取得手法の提案と実装
	東 達也 ¹⁾ 、吉川 毅 ²⁾ 、野中 秀俊 ³⁾
優秀ポスター賞	1) コンピュータサイエンス専攻 修士課程1年、 2) 同専攻 助教、3) 同専攻 准教授
	FTIR方式を用いた半球状マルチタッチインタフェース
	辻本 陽平
	複合情報学専攻 修士課程1年 局所エネルギー最小化法におけるエッジクロス解消のための局所調整
優秀ポスター賞	矢田 和也
	複合情報学専攻 修士課程1年
	スマートフォンによる麻雀初心者支援拡張現実システムの開発

新教員紹介

1. 最終学歴および学位、2. 前職、3. 専門分野



館野 高 教授

- 生命人間情報科学専攻 生体システム工学講座
- 平成6年大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了、博士(工学)
 - 大阪大学大学院生命機能研究科 特任准教授
 - 神経工学、電気生理学、微細加工技術応用

記事の詳細及びこちらで紹介されていない記事については、情報科学研究科ホームページ、工学部広報ホームページをご参照ください。

○情報科学研究科ホームページ
<http://www.ist.hokudai.ac.jp/news/>

○工学部広報ホームページ
<http://www.eng.hokudai.ac.jp/news/publication/news/>

IST NEWS No.28 平成24年1月25日発行

発行：北海道大学大学院情報科学研究科 広報・情報室
(編集担当：小野里 雅彦・山本 雅人・小山内 詔子・佐藤 健二)



情報科学研究科ホームページ
<http://www.ist.hokudai.ac.jp/>

